

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

《人社系》

●一橋大学経済学研究科経済理論・経済統計専攻

「文系修士課程における金融工学教育モデル」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

近年需要の高まりを見せる生保・損保・年金の数理的側面を扱うアクチュアリー関係の授業体系を整備するために、本学商学研究科の保険数理関連の授業が読替によって経済学研究科の授業となるようにし、アクチュアリー関連の資格取得に向けた個人指導も行ってきた。しかし当初計画していた(アクチュアリー)コースの開設は、支援期間中には実現しなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

アクチュアリーコース開設の一貫として、他大学との学生交流協定を目指してきたが、両研究科を当事者とする正式な協定になるため、各大学での承認など、実現に至るまでの手続きにかなり時間がかかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

各大学での調整を進めた結果、学生交流協定締結が確定した。学生交流は平成 23 年度から開始される。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

《人社系》

●一橋大学経済学研究科経済理論・経済統計専攻

「文系修士課程における金融工学教育モデル」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

支援期間中に学生海外研修派遣を2回実施し、学生による海外の学会参加・発表、大学や金融機関の視察が実現した。単年度の取組としては成功したが、制度化するには至らなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

関係教員的意思統一を図り、制度化する方法が確立できていなかったため、大学側に働きかけることができなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

当初から制度化することを前提に計画し、資金面など体制の確立を目指していれば、望ましい結果が得られたものと思われる。